

会議の概要(議事録)

| | | | | |
|---------------|--|-------------------|---|--|
| 会議の名称 | (番号) 1-25 | 令和2年度第一回墨田区産業振興会議 | | |
| 開催日時 | 令和2年6月18日(木) 午後3時から午後5時まで | | | |
| 開催場所 | 墨田区役所庁舎7階庁議室 | | | |
| 出席者 | <p>委員3人(関 満博、長崎 利幸、鹿島田 和宏産業観光部長)</p> <p>有識者4人(阿部 貴明、山田 昇、中田 清史、森山 育子)</p> <p>その他、経営支援課長、観光課長がオブザーバーとして、産業振興課長・産業振興課職員、株式会社GK インダストリアルデザイン 柴田氏・倉岡氏が、事務局として参加した。</p> | | | |
| 会議の公開 (傍聴) | 公開(傍聴できる) | 傍聴者数 | / | |
| 議題 | <p>1 開会</p> <p>2 区長挨拶</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 議題 (仮称) 墨田区産業観光マスタープランの策定について</p> <p>5 意見交換</p> <p>6 閉会</p> | | | |
| 配付資料 | <p>出席者名簿</p> <p>席次表</p> <p>資料1 (仮称) 墨田区産業観光マスタープランの策定について</p> <p>資料2 (仮称) 墨田区産業観光マスタープランについて</p> | | | |

| | |
|-------------|---|
| <p>会議概要</p> | <p>1 開会</p> <p>2 区長挨拶 ⇒区長から挨拶を行った。</p> <p>3 自己紹介 ⇒出席者が自己紹介を行った。</p> <p>4 議題 (仮称) 墨田区産業観光マスタープランの策定について ⇒資料1について、事務局から説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年3月に策定した墨田区産業振興マスタープラン(以下、「現プラン」という。)について、著しく変化する社会経済状況に対応するため、早期改定すると平成30年度産業振興会議で報告した。 ・新たなマスタープランにおいては、3つの視点で策定を行う。1つ目は、本プランの上位計画にあたる墨田区基本計画等との整合性を図り、策定を行うこと。2つ目は、令和2年度に計画期間が終了する墨田区観光振興プランと統合を行い、産業と観光を一体的に捉えた計画とすること。このため、名称は、「(仮称) 墨田区産業観光マスタープラン」(以下、「マスタープラン」という。)としている。3つ目は、社会経済状況等の変化に合わせた計画とすること。このため、名称は、「(仮称) 墨田区産業観光マスタープラン」(以下、「マスタープラン」という。)としている。3つ目は、社会経済状況等の変化に合わせた計画とすること。このため、名称は、「(仮称) 墨田区産業観光マスタープラン」(以下、「マスタープラン」という。)としている。 ・マスタープランの体系については、産業振興を通したまちづくりの考え方を構築し、ミッションと行動規範を策定したうえで、区職員への共有を図る。また、10年後のまちの将来像としてビジョンを設定し、その下位に戦略・施策体系を設定する。 ・策定の体制は、産業振興会議を検討の母体としながらも、適宜区内事業者や有識者等にヒアリングを行い、各関係機関等の意見も取り入れながら策定を進める。 ・策定期間は、令和2年度中としていたが、新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」という。)の影響から策定期間を1年間延期することとする。 <p>⇒資料2について、鹿島田産業観光部長から説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスタープランについて、令和元年12月5日の区議会産業都市委員会において、①現プランの総括、②改定の基本的考え方、③改定に向けた検討事項を中間のまとめとして報告したが、コロナの影響により、状況が大きく変わってきている。基本的な方向性に大きな変更はないが、コロナへの対応策や事業の進め方等について検討が必要である。 ・【①現プランの総括】では、すでに掲げている「産業と観光の融合」や「意識の高い事業者への支援強化」、「消費者を意識した新しい商業展開」、「コミュニティビジネス/ソーシャルビジネスの誘発」については、内容を強化し、マスタープランにも引き継いでいくとした。さらに、新ものづくり創出拠点やフロンティアすみだ塾から生まれた成果については、マスタープランにも強みとして活かしていくこととしている。 |
|-------------|---|

会議概要

- ・次に、【②改定の基本的な考え方】については、2つの視点を踏まえるとした。1つは、産業振興を通したまちづくり。現プランの強みを踏まえ、各事業が地域や区民にとってどのような役割を果たし、効果を生むのか、まちづくりの視点を持った事業運営を行うこと。もう1つが、産業と観光2.0。今までのような区内製品の販売を目指すのではなく、訴求力のあるコンテンツやMICEなどのビジネスを通じて区内の需要喚起を進めること。以上の2視点をベースにマスタープランを策定する。
- ・これを踏まえ、【③改定に向けた検討事項】として、「ブランド化の再構築」や「ベンチャー企業の集積とものづくり企業との連携促進」、「産業資源を活用した新たな人材育成（大学連携含む）」、「インバウンド対応を強化した観光施策の展開」、「創業支援・勤労福祉施策などの既存事業の見直し」を挙げた。
- ・しかし、コロナの影響により、イベント事業の延期・中止が増え、インバウンド需要が短期的には見込めないなかで、特にまちのブランディングや観光の在り方について、今後の対応や事業の考え方を検討する必要がある。
- ・当面は、コロナの影響を鑑み、「生命を守ることを最優先に、経済活動再開に向けて最善の対応を図る」こととし、融資の拡充や相談体制の強化を行う。その後の戦略の視点では、「新しい生活様式」を「強み」にすることを目指し、働き方の変化に対応した企業の取組やSDGsへの取組を支援していく。さらに観光については、短中期的な視点と長期的な視点を持ち、大胆な観光施策の転換を行っていく。
- ・今後の事業は、イベントや事業者募集などは延期するが、内部の検討や東墨田会館の活用といった具体的に推進できる動きについては、進めていく。
- ・今後の主なアクションとしては、コロナのリスクを新常态とする対応の考え方にに基づき、「事業継続を支える融資の更なる充実」をコロナへの喫緊の対応策とする。さらに、東墨田、錦糸町エリアを中心とした「地域の課題解決に取り組む事業者と地域産業の連携促進」、人材育成促進による「多様な働き方を実現するしくみづくり」を進めていく。
- ・また、地域に密着した「スモールビジネスの創出」、新常态に向けた「商業振興の対応」、「東京ミズマチ」の産業支援施設を拠点とする「新しい商品プロモーションの展開」、向島料亭街などの「地域文化の支援と観光事業連携」、「観光協会への支援と連携」についても各関係機関や地域と連携しながら実現を目指していく。

5 意見交換

(関座長)

- ・マスタープランの策定はいつになるのか。

(鹿島田産業観光部長)

- ・令和4年3月に策定を予定している。

(山本区長)

- ・墨田区の最上位計画である「墨田区基本計画」の中間改定を、策定から5年目にあたる今年度に予定していたが、コロナの影響で1年間延期する。これにあわせ、マスタープランに関しても延期することとした。

(関座長)

- ・コロナに関して、融資はどのような状況か。

(岩本経営支援課長)

| | |
|-------------|---|
| <p>会議概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナウイルス感染症緊急対応資金」の斡旋は約 1,700 件、「セーフティネット保証」の認定は約 2,000 件あった。 (関座長) ・区の融資に対して、金融機関はどのような位置づけか。 (東京東信用金庫 中田様) ・区があらかじめ定めた制度に基づいて、実質、無利子・無担保で融資を行っている。今回のような緊急時には、無利子期間の延長など、特別な対応も行っている。 (関座長) ・返済できることを見込んで融資することが通常だと思うが、返済見込みが立たない企業にも融資することはあるのか。 (岩本経営支援課長) ・融資の実行率は 97～98%程度である。区は、信用保証協会の保証に基づき、融資の斡旋を行っており、融資を受けられない事業者も一部いる。 (東京東信用金庫 中田様) ・今回は、緊急時のため、基準を緩和して融資を行っているが、信用保証協会の保証によって、融資上限額を引き下げ、貸すケースもある。 (関座長) ・東日本大震災の際は、工場の倒壊等により、設備投資が必要だった。岩手県宮古市では、中小企業基盤整備機構の高度化事業を活用し、「中小企業等グループ補助金」をつくり、施設・設備の復旧・整備を支援した。 ・今回は、不動産や設備関連の直接的な被害はないが、長期では、返済義務のある融資は中小企業にとって大きな負担となる。補助金という選択肢はないのか。補助金の集中的な投入により、正常化できる企業には返済義務のない資金支援が必要である。 ・各団体へのコロナの影響について、どのような状況か。 (東京商工会議所墨田支部 阿部様) ・洗剤やその容器、フェイスシールドなどを作っている会社については一部特需があるが、基本的に中小企業や小規模企業は状況が厳しい。短期的に直接影響が出ている業種やじわじわと影響が出始めている業種、長期的にみると厳しい業種など、様々である。 ・特に飲食・サービス業に関しては、4・5月は休業していたため、売上が0のところも多い。製造業は、受注が一定程度残っていたため、4・5月は仕事を続けていた印象である。納期等の関係もあるため、建築関係は予防しながら進めていた。不動産関連では、テレワークが定着するとオフィス等が不要なため、今後、空き物件が増えるかもしれない。 ・宿泊・ホテルやタクシー・バス・航空などの移動人口が関係する業種は、6月19日から県をまたぐ移動ができるようになるため、良化に向かえばいいが、依然として厳しい状況に置かれている。 ・プラスの面では、時差出勤やテレワークなどが普及しつつあるので、うまく定着できれば働き方が変わっていくきっかけになるのではないか。 (関座長) ・アパレル関係の状況はどうか。 (東京商工会議所墨田支部 阿部様) ・製品にもよるが、基本的にはあまりよくない。ベビー服などは中長期的に厳しい。大手 |
|-------------|---|

| | |
|-------------|--|
| <p>会議概要</p> | <p>メーカーの下請けやスポーツ関連についても景況は悪い。</p> <p>(関座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ベビー服は化学物質の含有量などが法律で規制されており、海外製は基準を満たさないことが多い。今後は、国産がほとんどになる。 <p>(東京商工会議所墨田支部 阿部様)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国依存しているものは一定の内製化が必要になってきているが、大きな投資を実行して、国内回帰させることに不安感をもっている人も多い。 <p>(関座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内企業の倒産はどのような状況か。 <p>(東京商工会議所墨田支部 阿部様)</p> <ul style="list-style-type: none"> 際立って大きな動きはないが、元々廃業を考えていた事業者が、コロナを機に廃業に踏み切った例がある <p>(関座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば、アパレル関係では、業態を変化させている企業があるなか、グンゼは下着から変化していない。製造工場は、国内では、岡山・山形・秋田、海外はベトナムにある。ただし、前工程をすべて自動化しているため、秋田工場ではベトナムとほとんどコスト変わらない。 アパレルの製造工場は、今、中国よりもミャンマーが多い。バングラディシュも一部あるが、コロナ以上に賃金未払いが問題となっている。 <p>(墨田区観光協会 森山様)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回のコロナでは、スーパーに卸している事業者の影響が少なく、土産物店や百貨店に卸している事業者の影響が大きかった。衣料品も同じ状況が起きているのではないか。 <p>(東京商工会議所墨田支部 阿部様)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活品はまだダメージが少ないが、旅行やレジャーなどのハレの日消費は厳しい。一方、新しい日常が定着し、人々が外出しないと支出が抑えられるため、経済にも大きな影響がある。これが今後も続けば、家計にも影響が出てくる。 <p>(関先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言後、飲食店に全く行かなくなったため、現金を使わなくなった。生活の仕方も大きく変わるのではないか。 <p>(墨田区商店街連合会 山田様)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ以後で売上が 1/3 以下まで落ち込こんだ時期もある。一方、商店街は元々大きな資本を投入していないため身軽な一面もあり、助かった部分もある。しかし、半年間も稼ぎがないことは今までなく、蓄えがなくなり、今後ますます厳しくなる。 プラス面では、求人がしやすくなったことが挙げられる。人形焼き屋なので、製造と販売があり、製造は男性しかいなかったが、コロナ後は女性の採用が増えた。 コロナ前はインバウンドを期待して、指差し英会話を導入したが、そもそも地域にとって必要だったのか考える時間ができた。ネット販売も行っているが、個店で買う顧客が多い。町の商店としては、今ある顧客を大切にしつつ、良いものを作れば、人は来てくれるのではないかと考えている。 最近の流れでは、キャッシュレスを導入したことは客さばきがスムーズになり、非常に良かった。今後も推進していくべきである。 |
|-------------|--|

会議概要

(関座長)

- ・ 錦糸町の状況はコロナ前後で変化したか。

(墨田区商店街連合会 山田様)

- ・ あまり変化していないが、客引きに外国人が増えた。夜間のパトロールで注意するが、価値観の違いからなぜ注意されているかわかってもらえない。彼らとしては、日本で働いて、稼ぐことを妨害されたという反応である。客引きが違法という認識がない。
- ・ 錦糸町にも夜間営業する通常の居酒屋や飲食店がたくさんある。客引きや違法営業を行う店などとは明確に区別する必要がある。
- ・ コロナで日常が様変わりし、考える時間ができたことで、今後の方向性が見えてきたと前向きに捉えられる点もあるのではないか。

(鹿島田産業観光部長)

- ・ すみだ錦糸町河内音頭は3密になるが、開催するのか。

(墨田区商店街連合会 山田様)

- ・ 状況次第ではあるが、来年はできれば開催したい。

(東京商工会議所墨田支部 阿部様)

- ・ ワクチンが開発され、治療法が確立すれば問題ない。

(関座長)

- ・ 日本では、インフルエンザ死者数は毎年4,000人である。コロナは900人である。

(東京東信用金庫 中田様)

- ・ 先ほど話題になった、返済義務のない資金支援について。ひがしんで実施している「短期継続融資」は、主に運転資金を支援し、返済期日を1年先に設定しているが、事業継続中は返済義務がない。そのほか、長期の融資メニューなども用意している。
- ・ 金庫全体でのコロナの融資相談は、23区の東エリア、埼玉県・千葉県の一部の事業者から約1万件、総額約2,000億円だった。区内9店舗に限定すると約2,000件、約350億円だった。そのほか、全額自主負担している葛飾区を除く、22区で率を変えて共済負担を行っている。例えば、墨田区は0.2%、江戸川区は0.5%である。
- ・ コロナ関連の補助金・助成金については、約300社、延べ約450件の申請相談があった。そのうち、約8割が従業員数20名以下の小規模事業者だった。内容としては持続化給付金が多く、業種は飲食業、製造業が大半を占めていた。
- ・ また、今後はM&Aや廃業の相談などが増えるとみており、事業承継支援を強化する必要があるほか、人材確保のチャンスが増えると予想している。

(関座長)

- ・ M&Aは始まっているか。

(東京東信用金庫 中田様)

- ・ コロナ前から動きはあったが、コロナ後でより増えた。売り手と買い手を仲介し、「マッチングを行っている。

(関座長)

- ・ 先ほどの宮古市の「中小企業等グループ補助金」について、10億円の予算のうち、75%を国が補助した。今までこのような動きはなかった。行政の補助金は投資と同じであり、企業が発展すれば税金として返ってくる。前向きな補助金の投入は重要である。

(墨田区観光協会 森山様)

会議概要

- ・コロナの影響で5月の訪日外国人数は過去最低の1,700人（前年同月比▲99.9%）と、観光業は大打撃を受けている。宿泊関連では、3月から影響が出始めており、4・5月の売上が90%減のホテルもある。
 - ・あるホテルでは、この数年で、2、3割だった外国人宿泊客が約7割まで増え、インバウンドの減少が大きな痛手となっている。それ以外も団体客やビジネス客、修学旅行客の割合が多かったため、非常に厳しい。例年4・5月に多い修学旅行もコロナの影響で秋に移動したが、これもキャンセルになっており、夏～秋にかけての見通しも立たなくなっている。
 - ・交通機関関連では、4月の定期券需要が7割減少している。基本的に移動を伴うものは厳しく、緊急事態宣言解除後も公共交通機関の利用客数は戻っていない。
 - ・観光協会としては、2月後半からイベント中止し、8月まではほぼ中止する。また、4・5月はまち処の業務を休止していたこともあり、区からの委託事業を含め、収入が減っている。
 - ・協会主催の着地型ツアーは、①修学旅行・体験、②まち歩き、③相撲部屋ツアーの3つを柱に行っているが、すべて2月から休止している。①は偶数月に開催しており、150万円の収入があったが、休止。8月再開を目指し、相撲協会と調整している。②はホテルの動きと同様に見込みが薄そう。③は6月から区内在住者・在勤者限定で再開した。
 - ・インバウンド需要が見込めないため、マイクロツーリズムとオンラインが重要になると考えており、まち歩きサイトのアップや個人向け体験サイトの制作を行っている。
 - ・MICEでは、かつて観光協会でも実施していた町工場見学ツアーを復活させ、ガチコースとゆるコースの2つ設けようと考えている。ガチコースは、新入社員やビジネスマンを対象に、【墨田区産業の歴史説明→スカイツリーから地形把握→2社程度の工場見学→懇親会】を考えており、交流的なビジネスツアーを予定している。
 - ・一方、ゆるコースは、小さな博物館を含めた2～3時間の工房巡りツアーを予定している。どちらも月1、2回の定期開催に向け、候補事業者の選定を行っており、9月に募集し、11月に開始できるよう、調整中である。
 - ・また、マイクロツーリズムとしては、地元にも目を向けてもらうため、まち処や江戸NORENで、区内在住・在勤・在学の方を対象に10%オフで商品販売を行っている。
 - ・今後は、例えば、オンラインで相撲体験や花街体験ができるような仕組みづくりや、数年後のインバウンド需要の復活に向けた映像の多言語化などを検討したい。区とも相談をしながら、事業の見直しを行っていく必要もあるが、観光はリアルにお金を落としてもらうことが重要であるため、今は、色々とチャレンジするしかないと考えている。
- (関座長)
- ・観光協会は何名在籍しているのか。
- (墨田区観光協会 森山様)
- ・現在は49人いる。
- (関座長)
- ・墨田区にはスミファのような工場見学ツアーはあるが、観光協会ではできないのか。
- (墨田区観光協会 森山様)
- ・以前は単発で実施していたが、今後は定例で開催したい。
- (関座長)
- ・工場見学ツアーでは、新潟県燕三条の「工場の祭典」が全国的に見ても規模が大きく、約120社が参加している。これを開始して以降は、工場を見せる企業が増え、例えば、

会議概要

- 包丁製造の藤次郎は常に工場を公開している。最も成功しているのは、鋸起銅器の玉川堂で、ショールームの設置は売上にもつながり、最近では女性の職人も増えている。
- ・コロナ関連では、燕市のインターン受け入れ施設「つばめ産学協創スクエア」では、コロナの影響で実家に帰省した学生に米などを送付し、支援を行っている。
 - ・このコロナ禍で世界情勢について、情報収集していたが、アメリカやブラジルは、経済活動を優先する傾向があったが、タンザニアでもほぼ対策せず、マスクもしていない。
 - ・日本では、政府がマスクを配布したが、製造元は興和、伊藤忠商事、マツオカコーポレーションの3社で、GF（岐阜ファッション）の検品を通したマツオカコーポレーション製からは不良品出ていない。
 - ・世界的な動きとして、日系の繊維企業は第三者検品機関になるケースが多い。この走りが、GFであり、社長が西濃運輸岐阜支店に勤めていた際に会社の一角を借りて創業し、現在は世界50か所、売上200億円、5,000人規模になっている。
 - ・GFはミャンマーに2010年に進出し、500人規模、最も基準が厳しいと言われるイトーヨーカドー基準で全商品の検品を行っている。ミャンマーにある600社の縫製企業のうち、400社が中国系企業であるが、20社ある日系企業は縫製からは撤退し、検品屋に変わったという状況である。
 - ・ちなみに、ミャンマーは停電が多いため、マシンが止まり、不良を0にすることはできないが、当初70~80%の不良率が、今は25%まで少なくなっている。
 - ・一般的に「世界」は、「政治・経済・社会」を指し、人の問題である。一方、「地球」は「物理学・生物学」の問題である。現在もコロナにとどまらず、台風1号、サイクロン、バッタの大量発生、飛行機墜落、朝鮮問題、インド・中国の衝突など、様々な要素が出てきている。近年は、「世界」と「地球」の2つに同時に問題が発生しており、これから先も続くと予想される。
 - ・コロナ禍が、このまま継続すると経済活動が成り立たない。今後、人は内向きになることが予想されるが、新しい枠組みの中でどのように生きるかを考えなくてはならない。今後は、様々な要素を受け止めた経済運営が一層求められており、安心・安全を基盤としながら、社会的に価値のあるモノやコトを提供し続け、持続可能性を追求していくことが最重要である。
 - ・現状をプラスに捉え、新しい可能性を探り、価値ある地域経営を行うべきである。
(長崎特別委員)
 - ・フロンティアすみだ塾や新ものづくり創出拠点、産業と観光の融合、大学誘致など、墨田区が実施してきたことが成果として出てきた。コロナで状況は変わるが、これらを活かし、乗り越えることが必要ではないか。
 - ・新常态がどのようなものになるかわからないが、各関係機関に事業者からの要望や情報が集まっている。各企業の状況を見極め、区と各機関が連携を強めながら、実効性の高い対策を行っていくことが必要である。
 - ・今後、働き方や暮らし方が変わることが予想されるが、このピンチの状況の中でもビジネスチャンスを見つけていくことが求められる。まずはピンチを乗り越える支援策を実行し、その後は、事業者のニーズを捉え、持続可能性を考えていくことが重要である。
(東京商工会議所墨田支部 阿部様)
 - ・今まで積み上げたことがコロナで全て失われたわけではない。緊急時がいつまでも続くイメージでは、マスタープランの方向が特殊な現状の延長線になってしまう。今までの

成果や取組、大切にしてきたことを重視したマスタープランとしていただきたい。

5 閉会

⇒産業観光部長が閉会のあいさつを行った。

- ・10か年計画で策定した現プランは、時代の変化に合わず、早期改定することとなった。次回のプランは、墨田区の将来像であるビジョンをしっかりと策定し、共有しながらも、個別の事象には随時対応し、時代に合わせた形で毎年修正していく計画としたい。
- ・様々な要素があるが、区民や墨田区というまちにとって、何が大切な要素かを、「産業を通したまちづくり」という視点を持って、地域の方たちとともに作り上げていきたい。

所管課

産業振興課